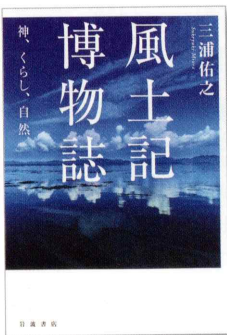


5つの国の『風土記』を項目ごとに分類

『風土記』は、中央から派遣された国司が土着の役人である郡司に命じ地域の長や古老から集めた情報を基に編纂した民俗誌だ。常陸（茨城）、播磨（兵庫）、出雲（島根）、肥前（佐賀・長崎）、豊後（大分）の『風土記』が知られている。記述は統一性に乏しく濃淡もあるが、組織制度を通じ取り寄せた報告であるため信頼性が高く、今なお一級の歴史資料として評価されている。本書は5つの『風土記』を登場項目ごとに分類した博物誌形態の資料だ。「神」「くらし」「自然」の3つに大きく分けられ、さらに「地震・火山」「磐根」「天皇の失敗」「舟と道」「生きものたち」「神のはなし」などの



小項目が並ぶ。記述内容の解説にとどまらず、この分野の第一人者として知られる著者らしい見解も添えられている。

↑『風土記博物誌 神、くらし、自然』 三浦佑之著 岩

波書店 (☎03・5210・4000) 2970円